新連載
皆野町の秩父事件⑦

（六）永保社の問題

金崎長興寺墓地にある山田懿太郎（いたろう）の墓に参ってから、門前の幅狭い道を西に行くと、右山側に長屋門を構える元永保社（永保会社）跡の山田邸があります。家人の話によれば門に残る傷跡は秩父事件の時のものだそうです。その西隣が元懿太郎の家で土蔵が残っています。その西に町道一号線に接して山田懿太郎を顕彰する小園地があります。秩父事件の翌年永保会社は新社屋を建築しましたが、その場所は長屋門の下の段だったようです。

秩父事件当時の道は国神長言寺裏から旧金崎神社の庭を通り金崎に下りて来ていたので（『皆野町誌』）永保社前の道は当時の道と考えてよいと思います。１８８４年１０月３１日夜秩父困民党襲撃隊はこの道を永保社に向ったことになります。

従来永保社襲撃事件は軍資金調達を目的に血気にはやった新井周三郎が村竹茂市ら上日野沢村の三十人程を率い永保社その他を襲い、現金や刀剣類を奪い多額の地券証書等を焼却した事件と言われてきました。

浅見氏は、大野苗吉らの風布組、榛沢郡岡村の大野又吉組（藤谷渕村柳芳平宅に集合）、その他国神金比羅神社に集合していた者もあり、そのうちの一人は風布琴平神社の号砲（花火）が行動開始の合図だったとの供述などを指摘し、二三十人より規模がはるかに大きく、しかも周到に計画された事件であると言っています。（浅見好夫『秩父事件史』）。事件直後永保会社社長山田倍吉と山田懿太郎（教育者・金崎連合村戸長・『皆野町誌』によれば永保社の実質的経営者）は警察官に対して、襲ってきたのは風布村の四五十名と断言しているのも以上を裏付けています。

永保社跡

当日山田家は村人を雇い警護を固めていましたが（『持田鹿之助日記』、以下『持田日記』と略称します）、襲撃側の余りの多さに驚き手出しが出来なかったと想像できます。

この日、小鹿野では山二などに大衆動員をかけ困民党は今後も対高利貸交渉を続けると見せかける「陽動作戦」を展開しましたが、その一方武装蜂起を鼓舞するために計画されたのが永保社襲撃だったのではないでしょうか。

山田懿太郎顕彰碑

永保社は「取り立てのために瀕死の重病人の寝具まで剥ぎ取るなど」、「暴利と取り立ての酷さは近郊に知られ」、「困民怨嗟の的だった」ため秩父事件で高利貸襲撃の最初の目標になったなどと書かれてきました。『皆野町誌』はこれについて「深くは別にゆずる」として論及していません。今、そのすべてを明らかにすることは不可能なので永保社は高利貸だったのか否かのみに限って次回以降考えたいと思います。

新米議員のひとりごと

常山　知子

久しぶりにレッドアロー号に乗って東京に行ってきました。

同じ職場で働き、一緒に労働組合で活動したＫさんの送別会に出席するためです。

Ｋさんは定年まで、あと一年と数か月を残して退職しました。人生設計では、定年まで働いて東京からちょっと離れた所に住んで、のんびりと・・・

ところが設計どおりにはいきませんでした。

新潟に住んでいる両親のめんどうをＫさんがみることになったのです。今までめんどうをみてきた弟さんからＳＯＳが発信され、悩んだ末にＫさんは新潟へ帰ることになったのです。

私のそばにも、仕事をしながら両親のめんどうをみている友人がいます。

「言うことをきかなくて・・・」と笑いながらはなします。

退職したＫさんに参加したみんなが「がんばらないでね！」と送りました。